

未来をつなぐあなたの思い 遺贈寄付のご案内

遺贈寄付は、ご自身の遺言によって、遺産の全部または一部を特定の個人や団体に寄付することです。日本鳥類保護連盟（以下、当連盟）では、READYFOR 株式会社の「レディーフォー遺贈寄付サポート窓口」を通じて、遺贈寄付をお受けしています。土地や建物などの不動産も含め、さまざまな遺産を遺贈の対象としてご寄付いただくことが可能です。当連盟を寄付先にご指定くだされば、私たちが取り組む「鳥たちが安心して暮らせる環境づくり」や、「人と自然が共に生きる未来の実現のための活動」などに活用させていただきます。



遺贈寄付について
詳しく知る

このような思いから
遺贈寄付を検討されている方が
増えています

思いをつなげたい

遺贈寄付は、亡くなった後も社会に役立てることで、あなたの思いを実現することができます。

生きた証を残したい

遺贈寄付はその思いとともに寄付先団体や身の回りの人々の記憶にのこり、この世に生きた証をのこすことができます

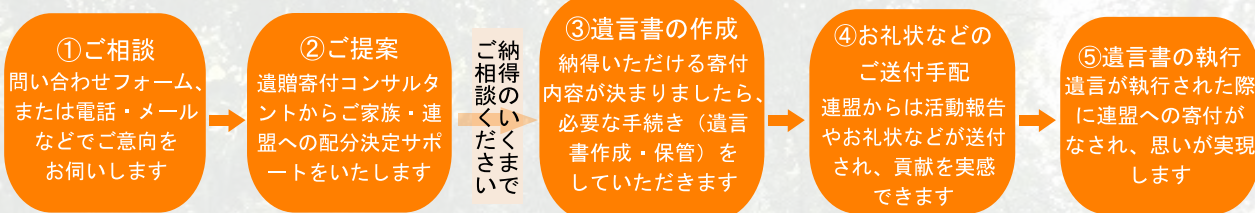
自分で選択したい

遺贈を行うことで、法定相続分に関わらず、自分の財産を役立ててほしい分野に自分の意思でお金をのこすことができます。

生きがいをを見つけたい

寄付を受ける側の原動力となるだけでなく、寄付をする側にとっても、自分らしい人生を生きる活力となります。

ご相談から寄付までの流れ



寄付金額は少額からでもご相談いただけます

ご相談可能な遺贈寄付の金額に下限はございません。ご自身およびご家族の将来の生活に支障が出ない形でのご提案をさせていただきます。

のこった財産からのご寄付なので安心です

「寄付はしたいけど今後の生活が不安」という方にこそ、生前は生活を第一に考え、のこった財産を寄付する遺贈寄付はおすすめです。まずはお気軽にご相談ください。

遺贈寄付サポート窓口について

READYFOR 遺贈寄付サポート窓口

<電話でのご相談>

TEL : 0120-948-313（通話料無料）

READYFOR の遺贈寄付専門スタッフがお答えします。お問合せの際は日本鳥類保護連盟ホームページを参照したことをお伝えください。

受付時間：平日 10:00 ~ 17:00（年末年始を除く）

<お問い合わせフォーム>

電話で伝えにくい内容などはお問い合わせフォームからのご相談も受け付けています。お問合せ内容の確認後、レディーフォーの遺贈寄付専門スタッフがご連絡を差上げます。

お問合せは
こちらから



日本鳥類保護連盟寄付受付担当

<電話でのご相談>

TEL : 03-5378-5691

日本鳥類保護連盟が行っている自然保護活動についてご紹介し、ご寄付がどのように使われていくかご説明します。そのうえで READYFOR の窓口におつなぎいたします

受付時間：平日 9:30 ~ 17:30（年末年始を除く）

<連盟案内の資料請求する>

連盟についてもっと知りたい方は、連盟案内をお送りします。ホームページにアクセスまたはスマートフォンで右側の QR を読み込んでお問合せください。

資料請求は
こちらから



私たちの自然



公益財団法人 日本鳥類保護連盟
Japanese Society for Preservation of Birds

●寄付・遺贈寄付を使った令和7年度の調査
庭に小鳥を 芋活のすすめ

くシジユウカラも来るお庭へく

生きものはつながっている
◆都市に生きるカルガモ
◆オタマジャクシ

2026
5・6
No 664

夏羽の身近なシギたち

4月から5月、千葉県で撮影

普段は地味な羽色のシギたちも、5月になる頃には綺麗な夏羽に変わっています。美しく着飾ったシギたちを見に、海に出かけたいくなります。

江口欣照（東京都府中市）



ミユビシギ



キョウジョシギ



トウネン



ハマシギ

植物豆知識〈43〉 お散歩目線で② 名探偵の楽しみ



満開の八重サクラ（品種不詳）の花の中に不思議な現象を見つけました。花弁などの一部が葉に変わっています。また鉢植え栽培のアサガオの雄しべは花弁になりかけているようです。このようなイレギュラーな姿が生まれるのは、植物の花を構成する各部はすべて葉から変化したものだからです（本誌 659、660 号参照）。ドクダミ（右下）の花弁のように見える総苞片も葉に由来します。図



鑑の記述にある 4 枚ではなく、5 枚や 3.5 (?) 枚のドクダミもありました。

図鑑の記述を超えた現象に出会うとサスペンスドラマの“名探偵”になった気分、頬が緩みました。

杉崎光明（樹木医・東京都江戸川区）

スタッフだより

赤いダイサギ

沖縄に調査に行き現地を視察していると、とある養豚場を通りかかった際に赤い鳥が飛び出してきました。色からしてフラミンゴがどこから逃げたのかと思いましたが、少し先に止まったところをよくよく見てみると、なんとダイサギではありませんか！ 白い鳥にこのように赤く色素異常が出る例があるとのことですが、羽根を拾うことができずこの個体がそうなのかははっきりとはしませんでした。初めて見た時は本当に驚きでしたが、無事に生き延びて来年も同じ場所で会えることを期待しています。

松永聡美（調査研究室）



私たちの自然



第 67 巻 No.664 2026 年 5・6 月号

- 2 寄付・遺贈寄付を使った令和 7 年度の調査（連盟本部・釧路支部）
- 6 庭に小鳥を 芋活のすすめ ～シジュウカラも来るお庭へ～（松永聡美）
- 8 フィリピン・ヌエバビスカヤ州での活動報告（調査研究室）
- 10 羽根探偵の謎解きファイル ～エピソード 8～（郷上マナツ）
- 12 生きものはつながっている
都市に生きるカルガモ（野間隆太郎）
- 14 生きものはつながっている
オタマジャクシ（関慎太郎）
- 16 サントリーが目指すサステナビリティ（市田智之）
- 18 面白いパズル発見！（中島慶二）
- 19 第 2 回 野鳥を詠む俳句を募集します
- 20 私たちが自然保護活動から学んだこと その 2
（第 59 回 全国野生生物保護活動発表大会 発表校）
- 21 第 80 回愛鳥週間「全国野鳥保護のつどい」について
- 21 ヒナを拾わないで !! キャンペーン
- 22 連盟日より
- 23 インフォメーション
使用済み切手・カード類提供のお願い／商品の注文について／
24 バックナンバーの提供について／会費の有効期限の見方／広告募集／
編集後記

ネイチャーフォト

夏羽の身近なシギたち（江口欣照）

植物豆知識〈43〉 お散歩目線で② 名探偵の楽しみ（杉崎光明）

スタッフだより

赤いダイサギ（松永聡美）

表紙のこぼれ

中島慶二

カルガモ

（3 月 東京都小金井市にて撮影）

カルガモにも雌雄の識別方法があります。左上がメス、右下がオス。オスの方が体が若干大きく、全体に黒っぽい印象です。特に尾の周辺が決め手。カルガモはほとんど濃茶色の羽根に薄茶色の縁取りがあり、ウロコのようなのですが、オスの尾の周辺だけはこの縁取りが無く、一様に黒く見えます。メスのほうはウロコ模様が見えます。

私たちの自然



NO.664
MAY
JUNE
2026

寄付・遺贈寄付を使った令和7年度の調査

日本鳥類保護連盟（以下、連盟）では、シマフクロウやアマミヤマガシギなどの希少鳥類の保護活動を実施するとともに、フィリピンでの渡り性猛禽類保全活動など国際協力事業にも取り組んでいます。これらの活動は、会員の皆さまからの会費や寄付・遺贈寄付などの温かいご支援によって支えられています。

今号では皆さまからいただいた寄付金が、どのように活用されているのかについて、シマフクロウおよび奄美群島の希少鳥類の保護活動を中心にをご紹介します。ご支援に感謝申し上げますとともに、活動の一端をご理解いただければ幸いです。

●寄付・遺贈寄付を活用したシマフクロウ保護活動の報告

連盟釧路支部 支部長 本藤泰朗 文・写真

連盟では、国からシマフクロウの保護増殖事業を請け負っています（写真1）。生息状況調査・標識調査、巣箱設置事業、給餌事業が主なもので、いただいたご寄付は主に給餌事業に使われています。

給餌事業とは公的に認められた給餌池へ生きた魚を入れ、シマフクロウの繁殖を支え、個体数増と生息域拡大・分散を図ることを目的とした事業で、絶滅寸前の状態から救い出すための暫定的な措置です。国は魚の費用を賄い、連盟は3カ所の給餌池の維持管理を行い、協働して給餌事業を続けています。給餌池では、地下水をくみ上げて池を作り、生きた魚を放流し、より自然に近い採餌環境を整えています。

給餌池の維持管理には、地下水をくみ上げるポンプの電気料金、老朽化した施設の補修・更新のための費用、災害に見舞われた際の復旧費用などが必要です。

給餌池はシマフクロウが生息する北海道の厳しい自然環境の中にあるので、傷みが早く、設置から30年近く経った施設は老朽化し、思いがけない問題が次々と起こります。昨年12月に道東地域を襲った暴風雪の際には数日間停電し、地下水の供給が止まった1カ所の給餌池では魚が全滅してしまい、急遽魚

を調達しなければならませんでした。また、地下水位が低下して水の供給が不安定になってしまった施設では、今年度、新しい井戸を掘る工事を実施しています（写真2）。

シマフクロウが採餌する際に止まる池の縁の止まり木もそろそろ交換時期を迎えています。40年以上も続いている関係者による地道な保護の取り組みにより、幸いにもシマフクロウの個体数は減少から増加傾向へと転じました。しかしまだまだ保護の手を離せる時期ではありません。

連盟では、シマフクロウが自然環境で安定的に個体数を維持し、絶滅の心配がなくなるまで国と連携して保護の取り組みを続けていきたいと考えています。

【シマフクロウ保護活動への取り組みの詳細はこちらから】



●絶滅危惧種サシバを守る国際的な活動

連盟 調査研究室 藤井 幹 文・写真

(1) GPS タグを使った渡りルートの解明

環境省のレッドリストで絶滅危惧Ⅱ類となっているサシバを保全するための活動を行っています。渡り鳥であるサシバを保全するためには渡りルートを詳細に把握しなければなりません。どこを優先的に守るべきか、越冬地のどこを守ればこの繁殖地に影響するかなど、踏み込んだ情報が必要なのです。令和7年度は、これまで奄美大島でGPSタグを装着してきた22羽のサシバの内、発信が途絶えていない19羽と、千葉県で夏に装着した4羽の計23羽を追跡したことに加え、新たに日本最西端の与那国島で5羽、沖縄島北部の国頭村で7羽、フィリピンのルソン島中部にあるヌエバビスカヤ州で3羽の計15羽にGPSタグを装着しました（写真3）。これによりサシバの越冬地としての南西諸島の位置づけが見えてくるほか、フィリピンでのGPSタグ装着に成功したことは、今後海外でGPSタグの装着を展開していく足がかりになることが期待されます。これらの活動は



写真1 保護事業が功を奏して個体数を回復させているシマフクロウ



写真2 新しい井戸の採掘作業

クラウドファンディングによってご支援いただいた寄付金と、連盟への直接のご寄付により実施することができています。

(2) 密猟撲滅に係る活動と環境教育

当連盟は国際協力事業としてフィリピンで活動していますが、ここでの主役もサシバです。密猟がまだ残っているフィリピンでは、密猟を撲滅するために活動している行政や民間団体等を支援しているほか、子どもたちへの環境教育を進めることで将来的に密猟が無くなることを願って活動しています。令和7年度も環境教育のための子供たちの地域間ネットワークの構築や環境教育教材の作成などに取り組んできました。この活動は経団連自然保護基金からの助成金と連盟へのご寄付を資金源として実施しています。



写真3 GPSを装着したサシバ

(3) 国際サシバサミット

日本をはじめとし、フィリピンや台湾、韓国など、国境を越えて移動するサシバが絶滅危惧種であることは、サシバが生息しているどの国も同じ認識です。各国が取り組んでいる保全のための活動や研究結果を共有し、国際的にサシバを保全していくため、令和元年には栃木県市貝町で「第1回国際サシバサミット」が開催されました。令和7年度は「第5回国際サシバサミット」が鹿児島県の奄美大島にある宇検村で開催されましたが、当連盟も皆さまからのご寄付を活用させていただき参画してきました(写真4)。おかげさまで国際サシバサミットは900名あまりの人々が集まり盛大に開催。サシバの保全に向けて大きく前進することができました。



写真4 サシバサミットの日本ブースの様子

【サシバを守るための保全活動の
詳細はこちらから】



●アマミヤマシギ

(1) 個体数が少ない日本の固有種アマミヤマシギ

アマミヤマシギは、鹿児島県の奄美群島に生息する日本の固有種です。奄美大島ではマングースの撲滅に成功したこともあり、個体数は回復し国際自然保護連合（IUCN）のレッドリストでは絶滅危惧種から外れ、環境省の第5次レッドリストでも絶滅危惧Ⅱ類から準絶滅危惧にランクダウンしました。しかし、世界で奄美群島周辺にしか生息していない鳥です。そのアマミヤマシギの生存をより安定的なものにしていくためにも、私たちはNPO法人奄美野鳥の会と共同で、アマミヤマシギの渡りの生態について詳しく調べてきました。



写真5 GPSを装着したアマミヤマシギ

(2) アマミヤマシギは本当に渡りをするのか

アマミヤマシギは奄美群島に一年中生息しますが、冬季には沖縄島などでも生息が確認されていて、沖縄県は県の天然記念物に指定しています。飛ぶのが得意とは思えない体型ですが、海を渡っていることを証明するため、これまでたくさんのアマミヤマシギにGPSタグを装着し放鳥してきました（写真5）。そして、奄美大島や加計呂麻島、徳之島で装着した個体は海を渡りませんでしたが、沖縄島で装着した個体が令和5年に奄美大島に渡ったことが確認されました。繁殖期が過ぎて沖縄島に戻ってくるところまで行動を追えれば、渡りをしていることが確定できたのですが、その年の台風6号が奄美大島に長期間滞在し、残念ながらその後データが取れなくなっ

てしまいました。これまでその1例だけで新たな成果が得られていませんでしたが、3年越しの令和7年度、沖縄島で3羽に装着することに成功し、そのうちの2羽が奄美大島に渡ったことが確認されました。これは大きな成果です（写真6）。

これらの活動はサントリー世界愛鳥基金の助成金で行われていますが、初年度はクラウドファンディングによる皆さまからのご支援、そして現在も人件費や助成金で賄えない経費はご寄付から支出させていただいています。



写真6 アマミヤマシギの調査風景

●オーストンオオアカゲラ

(1) 重点的な調査がされていないオーストンオオアカゲラ

オーストンオオアカゲラはオオアカゲラの亜種ですが、奄美大島のみが生息する固有亜種で、天然記念物と国内希少野生動植物種に指定されています（写真7）。環境省の保護増殖事業計画の対象になっていないため、保全のための調査があまり行われてきませんでした。そのため、当連盟ではNPO法人奄美野鳥の会と共同で、サントリー世界愛鳥基金からの助成を受けて個体数推定や行動圏などの調査を実施していましたが、助成金期間終了後も継続していく必要があると判断し、現在はいいただいたご寄付を使って自主事業として継続しています。助成期間の3年間で分かったこともありますが、分からないこともまだまだ多くあります。一つの種を保全していくためには地道な調査を続けていく必要があるのです。

(2) オーストンオオアカゲラの行動圏の解明が進みました



写真7 オーストンオオアカゲラ

令和7年度は、個体数推定や密度推定の基礎となる行動圏について調査を行いました。山間部ではかなり密度高く生息しているオーストンオオアカゲラですが、農耕地はどうかという点が未解明でした。これまでの調査では、おそらく山側から農耕地に出てきているのだらうと予測していましたが、実際は農耕地の中に存在するパッチ状の細長い林を行動圏にしており、山側から遠征してきているわけではないことが分かりました。これはオーストンオオアカゲラを保全してく上で貴重な情報となりました。今後は同じようなデータを複数得るのに加え、令和7



写真8 オーストンオオアカゲラの調査風景

年度では結果を出せなかった奄美大島最北端と考えられるつがいの捕獲、そしてマングローブ林を利用しているかどうかを把握するための林とマングローブ林との境での捕獲が目標です。

こうして一つ一つ分からない点を解明していきながら、その情報を元に保全について考え、また必要な情報が出てきたら調査を行う。これを繰り返すことで、オーストンオオアカゲラが個体数を維持する

ために必要なものが何なのか、明らかにしていきたいと思います（写真7）。

(3) 加計呂麻島のオーストンオオアカゲラ

これまでオーストンオオアカゲラは奄美大島のみが生息するとされてきました。隣接する加計呂麻島では迷鳥として観察記録があるものの、定着はしていないとされています。しかし、私たちの調査で、姿やドラミング、営巣の痕跡が確認されており、少数が定着していると考えています。まだその証拠となる情報を得られていませんが、令和8年度もご寄付を活用させていただき、調査をしていきたいと考えています。

【奄美大島における鳥類保護のための活動の詳細はこちらから】



●遺贈寄付について

今回ご紹介した活動のほかにも釣り糸（テグス）の回収、子ども鳥博士や巣箱プログラムなどの普及啓発、都市部での生息環境づくり（バードピア）など、多岐にわたる取り組みを行っています。これらの活動はいずれも、鳥類の保護や生息地の保全のみならず、人と自然とのより良い関係を築くために欠かせないものです。そして、その多くが皆さまからのご支援によって成り立っています。

2023年に受け入れ体制を整えた遺贈寄付は、土地や建物などの不動産も含めご遺産を遺贈の対象としてご寄付いただくことが可能です。当連盟を寄付先にご指定くだされば、私たちが取り組む「鳥たちが安心して暮らせる環境づくり」や、「人と自然が共に生きる未来の実現のための活動」に活用させていただきます。

鳥たちの未来を守るため、そして豊かな自然環境を次の世代へ引き継ぐために、今後とも連盟の活動にご理解とご協力を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

【遺贈寄付についてはこちら】



芋活のすすめ ～シジュウカラも来るお庭へ～

連盟調査研究室 松永聡美 文・写真

●イモムシをお庭に

朝活や推し活など様々な活動がありますが、世の中には芋活というものが存在します。「イモムシ・ケムシの専門サイト 芋活.com」※によると芋活とは「イモムシ・ケムシ」たちを愛で、人目を気にせずなりふりかまわず、その世界を存分に楽しむこと、とあります。イモムシ好きの私はこれに賛同し、芋活を始めてみることにしました。

芋活と一言で言っても写真で撮影して楽しむ人、飼育する人など様々でしょうが、私はいつでも観察がしたいと思い、お庭に食草を植えることにしました。イモムシなどの幼虫はある程度決まった種類の植物を食べるのですが、その植物のことを食草といいます。私はアゲハの仲間の幼虫が特に好きなので、キアゲハの食草であるパセリを植えてみました。キアゲハは近所では見たことがなかったので正直来てくれないのではないかと考えていたのですが、6月に入りキアゲハの幼虫がついているのを発見し歓喜しました。

自分の庭先でムチムチのイモムシを見ることができなんてこんなに良いことはありません。出張で見られない日もありますが、家にいる時は何度も見に行き癒されていました。これに気をよくして、次の年はナミアゲハも誘致しようと食草の一つであるレモンの木をパセリの隣に植えました。レモンに

も無事にナミアゲハの幼虫がつき、ナミアゲハとキアゲハの両方を愛でることができましたが、イモムシの食欲は凄まじくレモンの葉っぱをほとんど食べつくしてしまいました。パセリなら追加で植えることが簡単にできますが、レモンの木を何本も植えることはできないのでハラハラしながら見守っていました。

結局この年は硬い葉っぱを数枚残してほぼすべての葉っぱが食べつくされ、レモンが枯れてしまうのではないかと心配になりました。

●シジュウカラがやってきた

そんな心配をよそに、レモンは初夏になると新芽をすくすくと伸ばして新しい葉っぱがたくさん開きました。そしてまたイモムシのシーズン到来です。昨年よりもさらにレモンにはイモムシがついたので、嬉しい反面やはりこのままでは食べつくされてしまうのではないかという思いが脳裏をよぎりました。しかしある時からイモムシが少しずつ減っていることに気が付きました。ナミアゲハやキアゲハだと生まれてすぐ1齢幼虫で、そこから脱皮を繰り返すごとに2齢、3齢と大きくなっていき、5齢(終齢)まで育ってそこから1週間程度経過すると蛹になるためか食草を離れていきます。

ところが5齢になってすぐにどんどん姿を消して



写真1 鳥の糞に擬態した4齢のナミアゲハ



写真2 3齢のキアゲハ



写真3 5 齢のナミアゲハ



写真4 5 齢のキアゲハ

いくのです。何が起きているのだろと思っていましたが、ある日玄関を出た時にシジウカラがレモンに止まっているのを目撃しました。なるほど、犯人ならぬ犯鳥はシジウカラか！ とやっと気が付きました。イモムシを家の中に保護する方もいらっしゃるのですが私は敢えて家の中に任せて、ことの顛末を見守ることにしました。

結局7月上旬か中旬くらいまではしきりにシジウカラがやってきて、ナミアゲハとキアゲハはほとんど食べられてしまいました。しかし興味深いのは5 齢にならないと食べられないという点です。特にナミアゲハは1～4 齢までは鳥の糞に擬態したような模様をしています(写真1)。キアゲハも少し模様は違いますが1～4 齢は地味な色です(写真2)。それが5 齢を迎えると鮮やかな緑色に変化します(写真3、4)。1～4 齢までは擬態しているお陰でシジウカラに気づかれないのでしょうか。それともシジウカラは大きく育つまで待っているのでしょうか。どちらなのかははっきり分かりませんが、後者だとしたらシジウカラはまるでイモムシ牧場の経営者のようで計算高いですね。そしてイモムシが食べられてしまう悲しさはあったものの、そのお陰でこの年はレモンの葉っぱを温存することができました。

●イモムシの粘り勝ち

この年イモムシはほぼ全滅で終わってしまうのかと思っていましたが、子育てを終えたシジウカラはイモムシへの執着が薄くなるのか、8月にもなるとほとんど食べられなくなりました。イモムシはその後10月頃まで発生し続けて、一部は庭の中で蛹になりました(写真5、6)。何が悪かったのか羽化したキアゲハが落ちてしまっていてアリに食べられているのもいくつか目撃しましたが、死骸が無くて蛹が空になったものもありましたので、どうにか無事に羽化したものもいるようでした。

レモンとイモムシとシジウカラが揃ったことでどれも食い尽くされることなく命を繋ぐことができ、小さな庭先での生態系を感じることができました。レモンなどの柑橘系の木を植えるのは少し大変かもしれませんが、ナミアゲハであればサンショウの木でも誘致することができます。またキアゲハであればパセリやセロリなどのセリ科でも誘致することができますので、より手軽かと思います。皆さんも芋活にチャレンジしてみたいはいかがでしょうか。



写真5 キアゲハの前蛹（ぜんよう）



写真6 キアゲハの蛹（さなぎ）

※参考・引用文献
イモムシ・ケムシの専門サイト 芋活.com
URL: <https://www.imokatsu.com/>

フィリピン・ヌエバビスカヤ州での活動報告

連盟 調査研究室 文・写真

フィリピンのヌエバビスカヤ州はマニラから北に車で5〜6時間ほどの場所にあります。この場所は絶滅危惧種である猛禽類サシバの渡りルート上にあり、重要な中継地となっています。渡り途中のたくさんのサシバが羽を休める中、この地域ではサシバの密猟が未だに残っていて、渡りの時期になると密猟者がねぐらでハンティングすることが問題になっています。

私たちは①密猟根絶を進めるヌエバビスカヤ州のサポート、②環境学習を進めるため学生たちとの交流、③2027年に当地で開催予定の国際サシバサミットの調整、④サシバの渡りルートの全容解明のためのGPSタグの装着を目的として、カウンターパートのRaptorwatch Network Philippinesと共にフィリピンのヌエバビスカヤ州を訪れました。

●サシバの保全のための話し合い

ヌエバビスカヤ州知事とヌエバビスカヤ州立大学学長らと共にミーティングを行いました。待合室では以前にもお世話になった州の観光部署に所属するシャロンさんやヌエバビスカヤ州立大学のジェイソン博士から、現在密猟に対する厳罰化が進められているという嬉しいお話も聞くことができました。州知事とのミーティングでは、主に2027年に開催予定の国際サシバサミットについて参加人数や宿泊場所、移動手段などといった具体的なことが話し合われました。このサミットでは例年、研究者だけではなく地元の人々や学生たちも多く参加しています。サミットを通してヌエバビスカヤ州でもサシバ保全の意識を高め、密猟防止にも繋げることが期待できます。

同州のカシブという町にも訪れました。カシブも密猟が行われている場所です。この地域にあるコーヒー農園の裏山はサシバのねぐらにもなっているとのことです。カシブの役場に挨拶で立ち寄った際、販売するコーヒーのパッケージをサシ

バのデザインにし、価格を少し上げてその分を寄付にまわし裏山の保全に活かせないかと提案したのですが、そのお金が実際に保全に使われる保証もないので難しいということでした。しかし将来的にはそのような仕組みにしていけたらと考えています。

●環境学習の取り組み

ヌエバビスカヤ州立大学の裏の丘の上には、バンガンヒルと呼ばれる展望施設があります。ここは複数の行政等が管理する場所ですが、学生たちがここでサシバをカウントしているというので合流しました。

展望施設の上は360度に近い展望があり、サシバの渡りを観察するには絶好の場所です。カウントしている学生たちによれば、一週間で8,000羽ものサシバが通過していったとのことでした。この日も11時頃がピークで多くのサシバたちがタカ柱を作っては飛んでいく様子を観察することができ、改めてヌエバビスカヤがサシバにとって重要な場所だと感じました。

別日には学生たちにサシバを保全することの重要性やGPSタグによる追跡調査などについて説明しました。国際サシバサミットでは海外も含めたくさんの来訪者がヌエバビスカヤ州を訪れます。フィリピンでGPSタグを装着した個体はどこで繁殖し、どこで越冬したのか、ルートはどうだったかなど、サシバのことをもっと知り、勉強し、来訪者に説明して欲しいとお願いをしました。学生たちは皆、興味津々で話を聞いてくれており、今後のサシバの保全に明るい兆しが見えた気がしました（写真1）。

●サシバの渡りルート全容解明プロジェクト

3羽のサシバにGPSタグを装着することに成功しました。場所は共同研究者であるヌエバビス



写真 1 学生たちが説明を聞き入る様子

カヤ州立大学が観察を続けているバンバンという町です。水田と山が隣接する谷戸地形の里山で、渡り途中のサシバが毎日のように入れ替わり立ち替わりねぐらとして利用する場所です。ねぐらになっている山の麓のお宅を訪ねたところ、快く調査にご協力いただけることになり、そこをベースに調査を実施することができました。

翌日から罠をセットしましたが、この日は前日とは打って変わってサシバがほとんど夕方に飛来してきませんでした。この日ははずれだったようです。焦る気持ちを抑えながら次の日に再び同じ場所で挑戦しました。ご主人のオネルさんにも罠の設置にご協力いただきながら待機していると、夕方、次々とサシバが下りてきて、そのお宅の庭先に止まったり、林のすぐ上を乱舞したりする圧巻の光景を観察することができました。そして捕獲も大成功！ 2羽のサシバを捕獲することができました。Raptorwatch

Network Philippinesのアレックスさんとテレサさんに命名いただき、JuniorとMielとなりました。Juniorは息子、Mielは娘という意味があり2羽は家族だということでこの名前に決めたということです。そ



写真 2 捕獲されたサシバ (オネル)



写真 3 中古双眼鏡を寄付する様子

して残り1羽も次の日に捕獲することができました。今回オネルさんの的確なアドバイスがなければ3羽捕獲には至らなかったでしょう。感謝の気持ちを込めて3羽目の個体はオネル (Onel) と命名させていただきました (写真 2)。

捕獲地となったねぐらは中継地として利用される大規模なねぐらで、毎年利用されることから密猟者が今でも横行している場所です。調査中も密猟者が夜の林を照らしている現場に遭遇しました。この対策に州として取り組んでいる最中ですので、今後密猟が根絶されることを期待したいと思います。

●中古双眼鏡の寄贈

皆さんからいただいた中古双眼鏡を今回の訪問でも寄贈してきました。今回寄贈した中古双眼鏡は、ルソン島北部の高校や、ミンダナオ島南部の町ガバナージェネローソを通して学生たちに配られます (写真 3)。

このプロジェクトではこの後、サシバ保全のための子供向け絵本の作成やサシバの飛行ルートを示したTシャツなども作成し学生に配布していく予定です。密猟を根絶するには若い世代の教育が不可欠です。今後も継続して活動をしていきます。

※この活動は経団連からの助成金と皆さまからいただいたご寄付により実施しております。

羽根探偵の 謎解きファイル

エピソード8

さとう
郷土マナツ

登場人物

- 羽根田 翔**：探偵業をしているがなぜか羽根について異常に詳しく周囲からは羽根探偵と呼ばれている。
基本的に人見知りで不愛想だが羽根を見ると食いついてくる。
- 鳥居 明子**：自然や生きものが好きな高校生。好奇心旺盛で明るい性格。
- 木ノ下 智美**：明子の親友でクラスメイト。怖がりなのにホラー好き。
- 海沢 研**：九十九里浜をメインのフィールドにしている海鳥の研究者。豪快で陽気な性格。

明子は親友の智美と海水浴をしようと盛り上がり、都心からもアクセスの良い九十九里浜くじゅうくりはまに行くことにした。しかし九十九里浜くじゅうくりはまに着いて浜辺を歩いていると奇妙な現象に巻き込まれることに…

明子：「なんだか鳥たちがすごい騒さわいでない？」

智美：「うん、しかも私たちに襲おそい掛かろうとしているみたい！」

無数の白い鳥たちがキリッキリッキリッと騒ぎ立てながら二人の頭上で飛び回り、その中の数羽が代わる代わる二人にぶつかりそうなくらいに降下しては上昇を繰り返していた。

智美：「これってヒッチコックの『鳥』みたいじゃない？」

明子：「え、何それ？」

智美：「うそー、知らないの！？ 有名なホラー映画だよ！ うわっ、フンかけられたー！」

海沢：「おいおい、そこのお二人さん。ここに入っちゃだめだ。ここはコアジサシという鳥のコロニー。つまり集団で繁殖はんしよくしている場所だ。うっかりするとヒナや卵を踏んじまうぞ。立ち入り禁止の看板かんばんがあるだろう。」

声の方を振り返ると真っ黒に日焼けした大柄な男性が立っていた。そしてその男性が指さすところに小さな看板があるのが目に入った。

明子：「すみません、看板に気がつきませんでした。」

海沢：「まあ、こんな小さい看板じゃ無理もないな。ここは今年できたコロニーだからまだこの小さい看板しか立てられてねえんだ。今後は柵さくも必要だな。」

明子：「うっかり踏みつぶしてしまうって、地面に卵を産むんですか？」

海沢：「そう、コアジサシって鳥は地面に



写真1 明子が拾った翼



写真2 コアジサシの翼(左)と
明子が拾った翼(右)



写真3 コアジサシの初列風切羽

卵を産んで子育てをするのさ。ほら、あそこに卵があるだろ！」

砂地の色と同化して分からなかったが、よく見ると3個の卵が寄せ集めたように地面に置かれていた。そしてそのすぐ脇にある物が落ちていることに気づき明子は拾い上げた。

明子：「これって、鳥の翼でしょうか。」

海沢：「おーそうだな。もうすぐそういうのに詳しい奴が来るから聞いてみるといい。おっと、噂をすればちょうど来たぞ。」

羽根田：「遅くなってすみません、渋滞にはまってしまって…ってなんで君たちが一緒にいるんだ。」

明子：「あれー、師匠じゃないですか！！」

海沢：「師匠？ 羽根田さん弟子を取ったんですか。はっはっは、柄にもないね。」

羽根田：「やめてください、勝手に言ってるだけです。」

海沢：「まあまあ。それにしてもこんなところでお互いの知り合いに会うなんて世間は狭いね〜。おっと、もう昼になるな。コアジサシのコロニーを観察したいってことだったがまずは飯にしよう。良かったら君たちも来たらいい。」海沢に促されて4人は現地からほど近い海沢の家で昼ご飯を食べることになった。そして食べ終えて改めて明子はあの翼について羽根田に聞いてみることにした。

明子：「あの、これをコアジサシのコロニーで拾ったんです。ということはコアジサシの翼ってことですか (写真1)？」

羽根田：「はっ、全く似てないだろ。」

海沢：「そんな言い方してやりなさんな。コアジサシの翼と羽根ならここにもあるから見比べてみるといい。」

そういうと海沢は翼と羽根を持ってきて机に並べた (写真2、3)。

明子：「こうして並べてみるとコアジサシの方が羽根が長い灰色っぽいですね。」

海沢：「そうだな。…大きさや色からして拾ってきた翼はチドリの仲間だろ。写真5 智美が拾った羽根<キャプション> 繁殖期のこの時期ならシロチドリかコチドリだろうが俺は羽根に疎くて種類までわからん。羽根田さん答えを教えてください。」

羽根田：「拾ってきた翼を開いてみてください。内弁が白いでしょ (写真4)。コチドリにはこの白は入らない。従ってこれはシロチドリの翼ですよ。」

海沢：「ほーなるほど、シロチドリか。」

明子：「コアジサシとシロチドリを見比べても違いますね。コアジサシの方がコントラストがくっきりしてる！」

智美：「あの〜、じゃあこれは何の羽根でしょう？ 私もあの場所でさっき拾ったんですけどコアジサシの羽根とはなんか違うような気がします (写真5)。」

羽根田：「む、これは！」

明子：「えっ、何の種類なんですか？」

羽根田：「まずこれは羽軸の形からして尾羽だ (エピソード4 参照)。そしてこの大きさと羽根の形状、そして先端だけ斜めに黒が入り込んだ模様。こんな羽根は他にはなかなかない、これはツバメチドリの羽根だ。」

海沢：「ツバメチドリか、時折見かけるがこの場所じゃそう多くはないぞ。よく拾えたな！」

智美：「てへへ、私も羽根田さんに弟子入りしちゃおっかな！」

羽根田：「もういい加減にしてくれ！」



写真4 明子が拾った翼を広げた様子

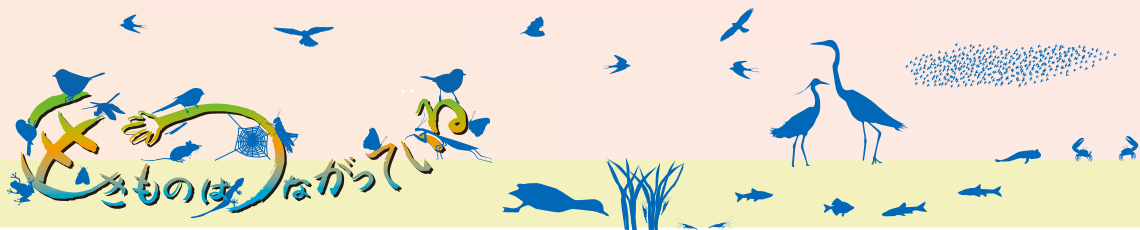


写真5 智美が拾った羽根<キャプション>

to be continued

参考・引用文献

○藤井 幹『羽根識別マニュアル増補改訂版』文一総合出版



都市に生きるカルガモ

株式会社 生態計画研究所 主査研究員 野間隆太郎 文・写真

●カルガモは留鳥？渡り鳥？

5月^{わた}は、冬の渡り鳥^{はんしよくち}がそれぞれの繁殖地へと飛び去り、低地の公園などでは野鳥の姿がぐっと少なくなる時期です。反対に、夏の渡り鳥が訪れる時期でもあります^{にぎ}、そうした鳥は小鳥類が多く、冬に賑わいを見せていた水辺は一気に静けさを取り戻します。しかし、この時期でも変わらず水辺に残り、水辺を賑やかしてくれる鳥たちがいます。その一つがカルガモです（写真1）。

カルガモは一年を通して日本で観察できるカモの一種で、渡りの区分としては留鳥^{りゅうちよう}に属します。とはいえ、谷津干潟^{やつひがた}では2017年に、中国のハンカ湖^{ひょうしき}で標識された個体の飛来が確認されており、必ずしも渡りを行わないわけではないようです（写真2）。

●カルガモってどんな鳥？

カルガモは、全身が黄～茶褐色で目元に黒いラインが入り、足は赤っぽく、くちばしは先端^{せんたん}が黄色くて他は黒いのが特徴です。雌雄共に同色ですが、オスはメスよりやや体が大きく、暗色で体の模様が目立たないのに対し、メスは背中^{とくちよう}の羽のふちが白く、全体的に模様がハッキリしているなど、細かい違いがあります。この時期はつがい^{しゅう}でいる事が多いので、



写真1 カルガモ

ぜひ見比べてみてください（写真3）。

カモ類の中では大型で、全長は約58～63cmです。しかし、体重は1.0kg前後と、体格に対して軽いため潜水^{せんすい}はできません。そのため、水中の食べものを得るときは、体の前半分だけを水につけ、まるで逆立ちのような姿勢になります（写真4）。潜水が得意なカモであるスズガモは、全長約40～51cmに対し体重1.0kg前後と、カルガモより小さいながら体重は同程度ですから、潜るためにはある程度比重^{もく}が大きいことが重要だとわかります。

食性は草食傾向の強い雑食性です。主に植物の種子や水草を食べますが、時に水生昆虫^{けいこう}や小型甲殻類^{こがたこうかくるい}なども食べます。他の野鳥から獲物^{えもの}を横取りする「労働寄生^{つか}」により、オオバンが捕まえたアメリカザリガニなどを食べる様子も確認されているほか、胃内容物の調査結果から、魚を好んで捕食していたと推測されるカルガモも確認されており、その食性は意外^{はばひろ}と幅広いようです。

●カルガモの繁殖

5月はカルガモにとって繁殖の季節でもあります。カルガモは冬にオスがメスに求愛を行い、つがいになります。一冬をつがいのまま過すと、春に



写真2 谷津干潟で撮影された標識個体



写真3 カルガモの雌雄比較 (前がメス、後ろがオス)

水辺近くの草地に枯草を集め、その上に自分の羽を敷いた巣を作り、約 10～14 個の卵を産みます。この頃にはつがいは解消されてメスが一羽で抱卵するとされ、卵は約 26～28 日で孵化します。カルガモのヒナは生まれてすぐに目が開き、自分の足で歩き始める「早成性」です。そのため、孵化後まもなく自分で採食し、母鳥の後を追って移動するようになります(写真5)。稀に、母鳥の後を追うヒナが14羽を超えることもあります。その場合は別の親のヒナが混ざる「ヒナ混ぜ」が生じているようです。多くのヒナが親鳥の後を追う様子は、非常にかわいらしいです。

●都市に生きるカルガモ

さて、そんなカルガモの子育ては、毎年この時期に全国のほっこりニュースとして報道されますが、その実態はなかなか過酷です。その理由は、主に都市部において、カルガモのヒナを襲う脅威は近年増加しているためです。

その脅威の一つは、開発による生息環境の減少です。開発によって水辺が減少し、残された水辺も周辺が住宅地で囲まれているケースが全国的に増えており、カルガモが他の水辺へと移動しようとした際に住宅地へ迷い込み、交通事故にあうケースなども発生しています。

もう一つの脅威は、カルガモのヒナを襲う外来生物の増加です。イエネコ、オオクチバス、ミシシippアカミミガメ、コイ、ウシガエルなどがその一例です。これらの外来種は、住宅地の近い都市部の公園ほど多い傾向にあるように感じます。特にネコは、その極めて高い捕食能力から、非常に大きな脅威となっています。しかし、水辺に移動してネコの脅威から逃れても、今度はアカミミガメやオオクチバスなどの、水中から忍び寄る捕食者によってヒナが襲



写真4 カルガモの逆立ち

われるケースも少なくありません。体格で勝る成鳥にとっては重大な脅威でなくても、体の小さなヒナにとってこれらは恐ろしい難敵です。在来の生物にもオオタカやハシブトガラスなどの天敵はいますが、昔はいなかったはずの外来生物による攻撃は、カルガモにとって新しい脅威といえるでしょう。

このように天敵の多いカルガモのヒナは、その全羽が生存できるケースは稀で、多くの場合は日に日にその羽数を減らしていきます。バードリサーチの2019年の調査では、21家族のうち9家族が全滅、4家族が全羽生存で、残る8家族も、内5家族は50%以上が捕食等によりいなくなったことが報告されています。

この調査の中で、生存率の高いカルガモの家族は、人の多い公園で繁殖を行ったために、捕食者が近寄りづらかった可能性が示唆されています。都市部だからこそ多い脅威も、同様に都市部であるがゆえに緩和されている部分もあるのかもしれませんが、都市部に暮らすカルガモを見かけたらぜひ、どうぞ優しく見守ってあげてください。



写真5 子連れのカルガモ

プロフィール

野間隆太郎 (のま・りゅうたろう)。株式会社生態計画研究所 主査研究員および葛飾区立水元かわせみの里 主任専門員。都市部の生態系調査と、それを背景にした環境保全活動およびフィールドガイドに取り組む。足元の自然や生きものの魅力を知ることを通して、自然と人との繋がりに気付いてもらいたいと活動している。



オタマジャクシ

ネイチャーフォトグラファー 関懐太郎 文・写真

●オタマジャクシはカエルの子

オタマジャクシと聞くと、童謡「おたまじゃくしはカエルの子」が子どもの頃から聞き慣れ親しんでいるため、誰もが口ずさんでしまうでしょう。シンプルな歌詞はうまく特徴をとらえています。例えば「ナマズの孫ではありません」はその容姿をしっかりととらえています。

ナマズの幼魚は水路や田んぼに暮らし、ミジンコや魚などを食べてある程度大きく育ってから川などへ流出します。田んぼにいる頃はオタマジャクシと同居し、ほぼ同じサイズで鰭が小さく頭でっかちなため、オタマジャクシにそっくりです。よく観察されているためこのようなフレーズが出てきたのでしょう。ただ、その後続く「やがて手が出る足が出る」は残念ながらちょっと違います。実際は、後ろあしが先に出了た後、前あしが出ます（同じ両生類のアカハライモリは前あしが先に出ます（写真1）。このように身近な生きものであるオタマジャクシはやがて変態し陸上にあがりカエルになります。この変態という両生類特有の劇的な変化は非常に理にかなった進化を遂げているため、自由研究や観察には最適な題材となります。

●鰓で呼吸をし、多機能な口器

カエルが卵から孵化するとゼラチン質や泡状の卵を守る基質の周りでじっとしています。触ると潰れてしまいそうなほど弱々しいです。よく観察すると水に溶けている酸素を吸って呼吸をするための器官である鰓が体の外に出ています。ウーパールーパーのような顔の横のフサフサとした赤い鰓のことです。しばらくするとオタマジャクシの姿になりますが、この頃には鰓が体の中にしまい込まれ餌を求め活発に動き始めます。

また、口器に特徴がある種類が多いです。口器で藻類などをそぎ取って食べたり、流水にくらすものは吸盤状になっていたりします。口器の中心辺りにある口は食べ物を食べる上で重要なのですが、日本のカエルのオタマジャクシはどれもおちょぼ口で小さく、プランクトンやデトリタスなどを主に食べています。また口器には歯があり、この配列が種ごとに異なるため種類を見極める重要なポイントともなっています（写真2）。

●田んぼを利用するオタマジャクシ

田んぼでオタマジャクシを見たことがありますか？とくに梅雨から中干しが始まるまでは様々な種類の



写真1 トノサマガエルの幼生。後ろあしが先に出てきている



写真2 ヒガシニホンアマガエルの口器



写真3 田んぼでよく見られるヒガシニホンアマガエルの幼生

オタマジャクシが大きく育った姿でひしめき合い大賑わいです。

オタマジャクシは田んぼを利用する生きものにとって非常に重要で、鳥類や水生昆虫などの重要な餌資源となっています。また、田んぼを集団で泳ぎ回ることによる濁りが、雑草が生えるのを抑制するとも言われています。

私のすむ滋賀県の田んぼを例に挙げると冬に水が残る田んぼでは2、3月にはニホンアカガエルやヤマアカガエル、時にアズマヒキガエルが利用します。混み合う前に産卵して上陸してしまうという魂胆です。その後シュレーゲルアオガエルに始まり、ヒガシニホンアマガエル（写真3）やトノサマガエル。続いてナゴヤダルマガエル、ツチガエル、ヌマガエルが産卵します。

ヌマガエルのオタマジャクシは高温の田んぼでも生きていけます。水温が高くなるにつれて多くのカエルが産卵してオタマジャクシが育っていくのですが、冬に産卵する種類に比べて春以降に産卵する種は上陸するまでの期間が短く、この場を一時的に利用してすぐに立ち去るようで、混み合った田んぼでもうまく利用できているのです。

●かわった環境を利用するオタマジャクシ

川の上流で産卵するカエルがいます。カジガエルやナガレヒキガエルなどで、これらの最大の特徴は大きな口器を持つことです。口器で急流に流されないように生活や捕食を行います。また、尾が太くて長い特徴があります（写真4）。

タゴガエルは川の源流部分の伏流水中（注1）で産卵します。岩の奥深くに産卵するため幼生は白っぽい体色をしています。大きな卵黄を持つためその栄養だけでもある程度の大きさまで成長することが出来ます。また木の上に産卵されたモリアオガエルの卵は泡状の巣の中である程度成長し、雨の刺激で下に広がる池などの水域にオタマジャクシが自らダイブして成長します。

（注1）伏流水：水が地面の下に浸透して流れる水の流れ

（注2）噴水孔：体の左側だけにある、エラを通った水が出る器官



写真4 流水にすむカジガエルの幼生。流されないように口器で石にへばりついている



写真5 オタマジャクシが終わろうとしているアズマヒキガエルの幼生

●変態

ツチガエルやモリアオガエル、ウシガエルはオタマジャクシのまま越冬する個体がいることが知られていますが、大部分は生まれた年に変態します。成長過程を追ってみると、後ろあしは外から見えるのでその成長ぶりを確認できるのですが、中々あしが大きくなれないと言う飼育者の声も聴きます。上陸直前まで体をしっかり作ってから一気に大きく育てるため、前あしが生える直前までは変化が目に見えておこりません。

前あしの成長を観察はしたことないと言う方が多いと思います。それもそのはず、前あしは体の中で後ろあしの成長と同じように成長していて、出来上がったものが突然出てくるのです。右前あしは皮膚を突き破って、左前あしは噴水孔（注2）からでできます。ある程度後ろあしが育った個体の腹側を透かしてみるとあしが見えることがあります。その後、口が開き、尾が短くなります。皮膚の構造も変わり呼吸方法までも…もはや別の生きものですよ。このように時間をかけて成長したオタマジャクシも上陸の際はひ弱で狙われやすいです。

もちろんカエルになった後も過酷な試練が残っているのですが、オタマジャクシの姿の観察としては一番の見せ場でおとなへの旅立ちです。まるで卒業証書を授与され旅立っていくようです（写真5）。

プロフィール

関慎太郎（せき・しんたろう）。1972年、兵庫県神戸市生まれ。琵琶湖博物館や京都水族館、日本両棲類研究所の立ち上げに関わり、現在は滋賀県にてびわこベースを運営する。両生類・爬虫類・甲殻類・淡水魚などの書籍を70冊ほど手がける自然写真家。主な著書に、『うまれたよ！オタマジャクシ（岩崎書店）』『はっけん オタマジャクシ（緑書房）』など多数。

サントリーが目指すサステナビリティ

サントリーホールディングス株式会社 サステナビリティ経営推進本部
天然水の森グループ スペシャリスト 市田智之 文・写真

サントリーグループは、水や農作物など自然の恵みに支えられた食品酒類総合企業として、人々の生活を潤い豊かにすることと自然環境を守り育てることが共存し、人と自然が互いに良い影響を与えあって永く持続していく社会を目指します。「人と自然が響きあう」社会を実現するために、私たちは自然への尊敬と感謝を忘れず、水をはじめとする自然の生態系が健全に循環するためのさまざまな活動に取り組んでいます。そして、商品・サービスを通してすべての人に人間らしい生活文化を提供することに加えて、バリューチェーン上のすべてのプロセスにおいて、私たち自身の事業成長が持続可能な社会の実現に貢献できるよう努めています。

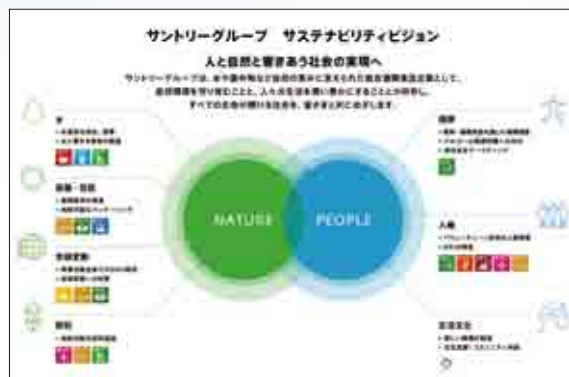


図1 サントリーグループ サステナビリティビジョン

このようなサントリーグループのサステナビリティへの考え方と、我々が貢献していく7つのサステナビリティのテーマを示したものが「サントリーグループ サステナビリティビジョン」です(図1)。「NATURE」(自然)と「PEOPLE」(人)は、相互依存関係があることを意識し、双方が「響きあう」社会の実現をめざしてステークホルダーの皆様と共に活動を行っています。

●サントリー 天然水の森

サントリーは水の会社です。良い水がなければ、ビールも、清涼飲料も、ウイスキーも、なに一つつくことはできません。

水——特に「地下水」は、サントリーという会社の生命線なのです。

その貴重な地下水(天然水)は、もとをたどれば森で育れます。「地下水」の安全・安心と、サステナビリティ(持続可能性)を守るために、私たちは『国内工場で汲み上げる地下水量の2倍以上の水』を、工場の水源涵養エリアの森で育てています。そのために、弊社水科学研究所を中心として工場の水源涵養エリアを特定し、その周辺の行政や森林所有者と森林整備の中長期的な協定を結び、「天然水の森」を設定しています。

「天然水の森」は、2003年熊本県・阿蘇から始まり、現在では、16都府県27カ所、12,000haを超える規模まで広がっています(図2)。

●50年、100年先を見据えた森づくり

同じ森は一つとしてありません。それぞれの「天然水の森」がどんな特徴や課題を抱えているのか。まずは科学的根拠に基づいた調査・研究(Research)をベースに、その森に最適なビジョン＝活動整備計



図2 天然水の森一覧とそれぞれの面積

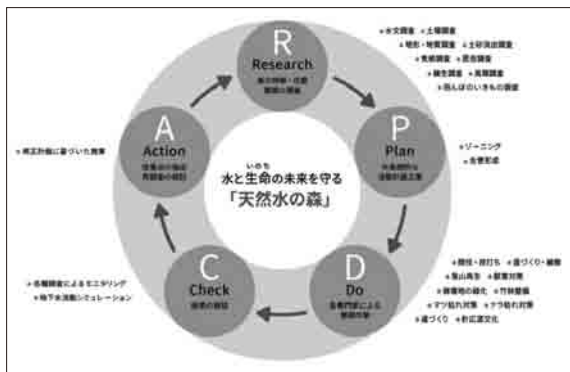


図3 森づくりのサイクル「R-PDCA」

画を立て (Plan)、プロによる整備作業 (Do)、結果の検証 (Check)、改善や再調査 (Action) といった、R-PDCAのサイクルを回しています (図3)。

「天然水の森」活動が対象とする調査・研究の領域・分野は多岐にわたり、その一つひとつが有機的に結びついています。例えば、近年ではシカによる採食圧が深刻な課題となっており、地表の植物が食べ尽くされることで、場所によっては土壌流出も始まるなど、生態系や水源涵養機能への影響が顕在化しています。このような広域課題には、官民が連携した対策が不可欠となっており、私たちも地域や関係機関と協働しながら対応を進めています。

●「天然水の森」におけるネイチャーポジティブの取り組み

水源涵養林としての高い機能を持った森林とは、雨水を地下へ浸透させる「フカフカな土壌」を持つ森です。この土壌の「団粒構造」は、多様な植物が供給する有機物を微生物やミミズ等の多様な生物が分解する過程で作られます。また、多様な樹種の根系が「杭」や「ネット」の役割を果たし、大雨による土壌流失を防ぎます。逆に、特定の樹種しかない単調な森は、下草が育たず土壌が流失しやすいため、涵養力も失われてしまいます。つまり、水を育む土壌の形成と維持には多様な生物の営みが不可欠であり、両者は実質的にイコールの関係にあると言えます。

そうしたことから、「天然水の森」では鳥類を含む動植物の継続的な生態系モニタリングによる計画的な管理を実施しています。環境のバロメーターといわれる野鳥について、専門家による調査を毎年行うことで、生態系全体の変化状況を総合的に把握しています。

また、国内すべての「天然水の森」において、生態系の最上位に位置するワシ・タカ類の営巣・子育ての実現を目指した「ワシ・タカ子育て支援プロジェクト」を進めており、「天然水の森」を鳥類の目から見つめ、生物多様性豊かな森づくりを進めることを目指しています。

●自然共生サイト

サントリーグループは2022年4月に、持続可能な社会の実現に向けて、生物多様性の損失を食い止め回復させることを目指す「生物多様性のための30by30 アライアンス」に参画しました。

さらに、「サントリー 天然水の森」8カ所が、「30by30」目標達成に向け環境省が推進する「自然共生サイト」に認定されています (図4)。当社の森林保全エリアが日本のOECMの一翼を担っていることは、国際目標への貢献という点でも大きな意義があります。今後も自然共生サイトの認定エリアを増やしていきたいと考えています。

<自然共生サイト認定エリア>

1. 「天然水の森 ひょうご西脇門柳山」
(兵庫県西脇市)
2. 「天然水の森 とくさや秋川」
(東京都あきる野市)
3. 「天然水の森 しずおか小山」
(静岡県駿東郡小山町)
4. 「天然水の森 日光霧降」
(栃木県日光市)
5. 「天然水の森 近江」
(滋賀県蒲生郡日野町)
6. 「天然水の森 赤城」
(群馬県波川市・前橋市)
7. 「天然水の森 奥大山」
(鳥取県倉吉市・日野郡江府町)
8. 「天然水の森 奥多摩」
(東京都西多摩郡檜原村)



図4 自然共生サイト一覧 (2026年3月現在)

プロフィール

市田智之 (いちだ・ともゆき)。和歌山県御坊市出身。1999年サントリー入社後、酒類業務用営業や企画等を経て2019年4月から国内水源涵養活動である「天然水の森」活動をはじめ、愛鳥活動の統括業務を担当。2024年4月よりサステナビリティ経営推進本部スペシャリスト。

面白いパズル発見！

連盟 専務理事 中島慶二 文



連盟の島田利子理事が、面白い冊子を紹介してくださいました。B6 横長、表紙も入れて 20 ページの簡易な冊子です。冊子の名前は「Birds in Puzzle」。発行は、第 46 回愛鳥週間「全国野鳥保護のつどい」神奈川県実行委員会。出題は浜口哲一さん、イラストは斎藤常實さんとあります。1992 年 3 月 31 日発行。30 年以上も前のものです。

パズルの種類は、鳥の絵をバラバラにした「ジグソーパズル」、「市の鳥・県の鳥」をあてるパズル、「ならびかえよう」（カタカナのカードを並べ替えて鳥の名前を作るパズル）、「図鑑片手にシークワーズ」、「組み合わせてごらん」、「つながれスケルトン」「頭をひねってクロスワード」と多彩。やってみるとこれ、結構むづかしいです。この冊子の中から、今回は 3 種類パズルを紹介します。

◆ならびかえよう

「ならびかえよう」は、ブロック内にバラバラに配置された鳥の名前を見つけ出すパズルです。今回は 2 問用意しました。同じ文字は 2 回使えません。

向かって左側のブロックには 2 つの鳥の名前がバラバラになっています。まあ簡単ですね。練習問題。

右側のブロックは少し考えないと出てきません。3 つの鳥の名前が隠れています。さて何分でできましたか？

●ならびかえよう

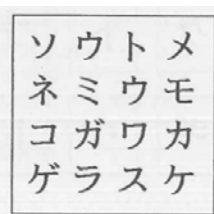
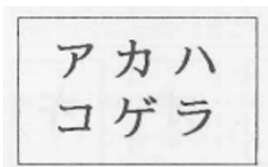


PZ. 4 鳥の名前がバラバラになって、しかもいくつかの種類がまざってしまいました。左は 2 種類、右は 3 種類の鳥の名前を探してください。

ス	ホ	ロ	ツ	シ	カ	ト	リ
ク	ト	フ	リ	ブ	キ	バ	オ
ギ	ウ	ト	ジ	ヨ	イ	オ	キ

◆シークワーズ

ごちゃごちゃにならんだ字の中から、単語を探し出すパズルをシークワーズといいます。鳥の名前のシークワーズにチャレンジしてみてください。タテ・ヨコ・カギ形につながった字から鳥の名前を見つけます。上下左右どちらから読んでも、同じ字を何回使っても OK です。ただし斜めに読んではダメ！



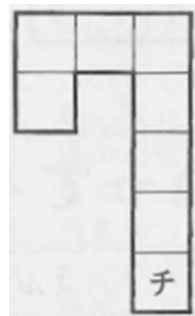
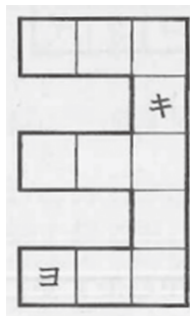
さて、これは練習問題です。何種類見つかりましたか？ 3 種類？いいえ、4 種類です。

一番驚いたのはこれです。なんとこの中に 11 種類も鳥の名前が隠れています。かなりの難問。皆さんもチャレンジしてみてください。

◆つながれスケルトン

縦横に骨組のように組み合わせたマス目を言葉でうめていくパズルをスケルトンといいます。タテかヨコの 1 列に一つの鳥の名前が入るようにします。ただし、タテの時は上から、ヨコの時は左から読むようにしなくてはなりません。入る言葉は日本の野鳥の名前だけです。

このパズル、鳥の名前を覚えるにはとてもいいですね！図鑑の索引がないとなかなか正解にたどり着けないかもしれません。なかなかお目にかかれない鳥も隠れています。



最近記憶力やひらめき力の衰えを痛感している私のボケ防止にも役立ちそうなパズル。答えは 23 ページに載せておきます。皆さん、時間が空いているときにでもチャレンジしてみませんか。

第2回 野鳥を詠む俳句 作品募集

昨年ご好評をいただいた「野鳥を詠む俳句」を今年も開催します。

どの季節でも構いません。身近なスズメから、渡りの途中に訪れるシギ類、色彩豊かなヤイロチョウまで、特定の野鳥を一句

に詠み込んでください（必ずしも野鳥の種名を入れる必要はありません）。鳥の生態を捉え、その場にいるかのような臨場感と、自然の風情が感じられる作品をお待ちしています。

【第1回 野鳥を詠む俳句 最優秀作品】

大の字で仰ぐ大空雨燕

國本秀山

【評】悠然と空を飛ぶ雨燕。作者も空に身をゆだね、雨燕と一体化しているようです。

【募集要項】

- 募集期間：2026年5月1日（金）～7月24日（金）必着
- 募集テーマ：「野鳥」※ 応募作品は未発表の句に限ります
- 応募資格：どなたでもご応募いただけます（お一人につき3句まで）
- 結果発表：『私たちの自然 2026年9・10月号』にて発表
- 応募方法：

- 郵送の場合：原稿用紙またはA4用紙などに、俳句、俳号（発表時は俳号で公開します。本名は非公開）、お名前、お電話番号、メールアドレス、ご住所、年齢をご記入ください。

〒166-0012 東京都杉並区和田 3-54-5 第10 田中ビル 3F
日本鳥類保護連盟「俳句係」宛

- Web 投稿の場合：投句フォーム（Google フォーム）に必要事項を記入して送信して下さい。

◇投句フォーム：<https://forms.gle/pj4VR7GsYpe3DuVF8>

●賞 【最優秀作品 1点】

- ・賞状、オリジナルバンダナ
- ・12月に行われる愛鳥懇話会 ※にて表彰

【優秀作品 10点】

賞状、オリジナルピンズ



投句フォーム
（Google フォーム）
※携帯電話からも応募可能

問い合わせ

〒166-0012 東京都杉並区和田 3-54-5 第10 田中ビル 3F

電話：03-5378-5691 メール：hukyuu@jspb.org 担当 吉田

※著作権について：入選作品の著作権は日本鳥類保護連盟および著作者に帰属します

入選外の作品の著作権は著作者に帰属します。 ※ 選考に関するお問い合わせはご遠慮ください

※愛鳥懇話会：当連盟総裁 常陸宮同妃両殿下の御臨席を賜り、全国から多くの野鳥保護関係の方々が集い開催される親睦の会。毎年12月上旬に東京で開催。

私たちが 自然保護活動から 学んだこと その2

—第59回

全国野生生物保護活動発表大会 発表校—

第59回 全国野生生物保護活動発表大会
(2025年11月開催)で受賞した学校から、
自然保護活動から学んだことを
紹介いただきました。

本州西端のサンショウウオをまもる 再生活動と観察会の主催

山口県 学校法人山口高川学園 中学校・高等学校

高川学園中学校・高等学校では、アブサンショウウオやヤマグチサンショウウオ、オオサンショウウオといった絶滅の危機にある両生類を対象に、生息地の保全活動と現地観察会を行っています。研究を通して、生徒たちは河川の堆積物の浚渫による水質改善や、耕作放棄地の増加による湿地の乾燥など、人間活動が生息環境に大きく影響していることを学びました。また、繁殖池の再生や個体数の増加に向けた取組から、生物の生息は環境全体と深く関わっていることを実感しています。

当初は中高生の力では環境の改善は難しいと考えていましたが、正確な研究データを積み上げ、それを行政や地域に伝えることで、河川環境の再生や生息地の保全・復元につながることを学びました。観察会や発信活動を通して認知度の向上にも取り組んでいます。

これらの活動を通して得た学びを今後も継続し、後輩へ引き継ぐとともに、地域や学校に広げながら、両生類の保全活動をさらに発展させていきたいと考えています。



地域の宝・面瀬川から広がる学び

宮城県 気仙沼市立面瀬小学校

気仙沼市立面瀬小学校の児童は、身近な面瀬川での生き物調査を通して、多様な水生生物が生息する豊かな自然に驚きと感動を覚えています。採取した生き物を継続的に飼育・観察する中で、生き物一つ一つの命の大切さや、それを支える環境への関心が高まり、学んだことをリーフレットにまとめて発信するなど、生き物や地域環境への理解が深まりました。さらに学びは川から海へと広がり、森や流域の土壌が川を通じて海を支えていること、川と海を行き来する生き物がいることなど、「森・里・川・海」のつながりに児童は気が付きます。下流域の水質低下を知ったことをきっかけに、環境を守るために自分たちができることを考え、家庭で油を流さない、洗剤の使用量を減らす、川周辺のごみ拾いを行うなど、自分たちの生活を見直す行動につながっています。異学年交流や発表の機会を通して、学びを伝え合い、考えを深める力も育まれました。面瀬川での学びは、児童の学びに向かう力を高め、これからの環境保全や野生生物保護につながる確かな基盤となっています。



森・里山を知り、つくる ～残された地域の財産を伝えるために～

京都府 京都府立宮津天橋高等学校

宮津天橋高校フィールド探究部は、「地域で科学、地域を科学」「ホンモノを感じる!」をモットーに、丹後地域の森林・里山で環境保全活動や希少生物の保護に取り組んでいます。巨樹の調査では、神社仏閣や山林を訪れて確認を重ね、その結果をまとめて発信することで、地域の人々に自然の価値を伝えてきました。現地に足を運ぶことで、地域のシンボルとなる樹木や祠の保全にもつながり、自然が人々の暮らしと深く結びついていることを実感しました。

また、サンショウモの研究では、耐陰性や生育条件、イネへの影響を調べ、通説に対して科学的に検証する姿勢を大切にしてきました。希少種の保護や湿地の整備、里山公園づくりを地域と協力して進める中で、自然を「守る対象」ではなく「人と共に生きる存在」として捉える視点を学びました。

これからも体感を通して自然から学び、探究し、自然・人・地域をつなぐ架け橋として、丹後の豊かな環境を未来へつないていきたいと考えています。



毎年、5月10日から16日は「愛鳥週間」 BIRD WEEK

愛鳥週間とは…

1947（昭和22）年に鳥類保護の実践と普及啓発を推進するため結成された鳥類保護連絡協議会（後の、日本鳥類保護連盟）により、毎年4月10日が「バードデー」と定められました。1950（昭和25）年からは1日だけではなく、5月10日から同月16日までの1週間とし、名称も「愛鳥週間（バードウィーク）」と改めました。愛鳥週間では、野鳥とそれを取り巻く自然環境について、現状を正しく理解し、野鳥保護と自然環境及び生物多様性の保全の重要性を普及啓発するとともに、保護・保全に向けた行動を起こすことにより、野鳥を含む自然と私たち人類が共生できる社会の実現を目指しています。

第80回愛鳥週間「全国野鳥保護のつどい」開催について

令和8年度の第80回愛鳥週間「全国野鳥保護のつどい」は、5月10日（日）東京都港区にある虎ノ門ヒルズフォーラムを会場に記念式典を開催します。

「全国野鳥保護のつどい」は5月10日から16日までの愛鳥週間の中心行事として、連盟総裁 常陸宮同妃両殿下のご臨席のもと、環境省との共催、文部科学省・林野庁の後援をいただき、全国から多数の参加者を募って開催してきました。令和3年（第75回）から令和7年度（第79回）の野生生物保護功労者表彰一覧と、総裁賞受賞者の基調講演をホームページで公開しています。ぜひご覧ください。

【問合せ先】

E-mail : hyukyuu@jspb.org 担当：岡安



全国野鳥保護のつどい HP



巣立ちヒナへの正しい対処法を広く伝える「ヒナを拾わないで!!」キャンペーンは環境省後援のもと、今年も（公財）日本野鳥の会、NPO 法人野生動物救護獣医師協会（WRV）と当連盟の3団体共催により実施しています。今回で32回目を迎えました。

キャンペーンポスターを3団体合計108,000枚制作し、各地方自治体、学校などの教育機関や公共施設、動物病院、ペットショップ関係を中心に配布し、マスコミを通して趣旨を広く呼びかけています。

当キャンペーンは趣旨に賛同いただいた皆さまの寄付によって支えられています。今回、当連盟へご支援いただきました企業・団体等は上記の皆さまです。ここに改めて、心より感謝申し上げます。

ご協賛ありがとうございました



（株）アイワ徽章
奄美いんまや動物病院
アルスコンサルタンツ（株）
（株）オオバ
京都野鳥の会
寿精版印刷（株）
（宗）真如苑
富山県鳥獣保護センター
別所動物病院（長浜市）
日本印刷（株）
（株）ベッズイシバシ
森ビル（株）
鳥取県（とっとり生物多様性推進センター）、
福井県、山口県、和歌山県

※ポスターは機関誌5・6月号
の付録として同封

（敬称略・順不同）

ポスター掲示のご協力のお願い

キャンペーンの趣旨をより多くの方に知っていただくために、ポスターを無料配布しています。ポスターの配布を希望される方は右記のQRコード（申込みフォーム）を読み取ってお届け先と希望枚数をお知らせください。



寄付をしてくださった方

【第三弾】絶滅危惧種サシバの保全を皆の手で。渡りの全容解明への挑戦

2025年9月16日から11月7日まで実施したクラウドファンディング「【第三弾】絶滅危惧種サシバの保全を皆の手で。渡りの全容解明への挑戦」では、334名の皆様よりご支援をいただきました。本号では、掲載に同意いただいた寄付者の皆さまをご紹介します。心より御礼申し上げます。

秋山幸也、東 淳樹、荒井克人、荒井悦子、有栖。、出江俊夫、井上剛彦、今森達也、上野 百合子、内田俊彦、神田川 鳩、岸本洋和、桑野 由里子、河内山 耕、小林優子、小山正人、近藤龍哉、佐藤友記、嶋田和明、園田愛美、比嘉竜二、藤浦芳江、森内一朗、渡辺一郎、渡辺 向山玲衣、渡辺 有希子、島かけす、雀鷹が好き、天プラの羽衣、音楽帳工房、野鳥生活、アトリエ マンセル、あさかぜ、あんず、うえどー、うし、ウミネコ、おふじ、かっきー、からし、くんちゃん、げんごろう、コキンメふくちゃん、さっきー、シギ、シモツマ、しゅん、てじ、なお、ネジガイ、ハマバード里山、ぱるっと、ピックイタあぼ、ベグル、まる猫、めぐみ、もこりん&ま〜み〜、CA、ecofriendly-eiko、enya、gama、god君、H.T、H.裕子、Harata、kawasemi、KAZUE、kazz、Ktt Tomo、L.K.Mikami、Midori Kobayashi、MIKI、neconeconeco、nap、Noboru Yoneda、peach、pippi、scops、shigeru、Stean Anthony、yamoさん、yas、(yasueda)、Yusuke Ichino、NPO法人ジャパンワイルドライフセンター(JWC) (敬称略・順不同)

「日本の野鳥カレンダー2026」 表記誤りに関するお詫び

日本鳥類保護連盟が販売いたしました「日本の野鳥カレンダー2026」におきまして、「5月11日」の表記に誤りがあることが判明いたしました。本来は平日であるところを、休日と同様の赤字で印刷してしまっておりまして、ご購入いただきました皆様には、ご迷惑をおかけいたしましたことを、心よりお詫び申し上げます。

本件につきまして、訂正用の黒色の「11」のシールをご用意しております。ご希望の方は、お手数ではございますが、下記問い合わせ先までご連絡くださいますようお願い申し上げます。

今後は同様の事態が生じないよう、細心の注意を払い、品質管理の徹底に努めてまいります。何卒ご理解を賜りますとともに、今後とも変わら



ぬご愛顧のほど、よろしくお願い申し上げます。

問い合わせ：普及啓発室 商品担当 岡安宛

TEL：03-5378-5691

E-mail：hukyu@jpspb.org

令和8年度の会員証ができました

公益財団法人

日本鳥類保護連盟

令和8年会員証の鳥

シジュウカラ

学名：Parus cinereus

英名：Cinereous tit

日本全国に広く分布し、里山や公園、庭先など様々な環境に適応して生息しています。

繁殖期は3月中旬から7月末頃で、木の穴や巣箱を利用して子育てを行います。

今年は連盟が実用新案を取得した「2つ穴の巣箱」をシジュウカラが利用する様子を描きました。



本号の最終ページに会員証を封入いたしました。皆さまの会員番号は、機関誌封筒ラベルの19または20で始まる10桁の数字です(例：2026010101)。※一部の支部では会員番号が設定されていません。

なお、会員の有効期限は同ラベル右下の数字です。例：3/31/2027は2027年3月31日までということです。

会員証の鳥／シジュウカラと2つ穴巣箱(絵：伊藤成美)

シジュウカラは全長約14.5cmの小型の鳥で、日本全国に広く分布し、里山や公園、庭先など様々な環境に適応して生息しています。繁殖期は3月中旬から7月末頃で、木の穴や巣箱を利用して子育てを行います。今年は連盟が実用新案を取得した「2つ穴の巣箱」をシジュウカラが利用する様子を描きました。ぜひ巣箱を架けて、シジュウカラの繁殖を応援しましょう！

愛鳥週間用ポスター原画の貸し出し企画

愛鳥教育に関心をもっていただくとともに、ポスター制作の参考にする教材として活用していただきたいと考え、学校・公共施設において実際に「愛鳥週間用ポスター」として採用された「原画」を貸し出す取り組みを行っています。

過去5年間分の「原画」5作品とともに、制作された実際の「愛鳥週間用ポスター」を併せて貸し出すことが可能です。ご希望の方は下記の問い合わせ先にご連絡ください。(貸出期間は原則2週間まで)

問い合わせ：普及啓発室 愛鳥週間用ポスター担当 岡安宛

TEL：03-5378-5691

E-mail：hukyu@jpspb.org

HP：https://jpspb.org/newsite/aicho-poster/



本部主催 テグス拾い活動

釣り糸（テグス）による野鳥被害の防止を目的として、回収活動「テグス拾い」を下記のとおり実施します。初めての方も歓迎です。野鳥だけでなく、多くの生きものや自然を守る活動に、ぜひご参加ください。活動終了後には、1時間程度の野鳥観察会も予定しております。

日時：令和8年5月24日（日）10:00～12:00（小雨決行）

場所：葛西海浜公園 西なぎさ周辺（東京都江戸川区）

集合：9:45 葛西渚橋のたもと

内容：釣り糸（テグス）の回収活動、野鳥観察会（希望者はその場でお申出ください）

持ち物：

＜必須＞手袋（軍手可）、タオル、飲み物、帽子、動

きやすい服装

＜任意＞日焼け止め、双眼鏡、ハサミ（テグスカット用）
参加申込は、QRコードを読み取り、Google フォームよりお申込みください。

問合わせ：普及啓発室 吉田

E-mail:hukyuu@jspb.org



面白いパズル発見！（18ページ）答え

◆ならびかえよう

左問：フクロウ、ホトトギス

右問：オオヨシキリ、キジバト、カイツブリ

◆図鑑片手にシークワーズ

左問：コゲラ、アカハラ、アカゲラ、コアカゲラ

右問：ウミネコ、ウミガラス、ウトウ、ウミウ、ウソ、カモメ、コガラ、コゲラ、カワガラス、カケス、カワウ

◆つながれスケルトン

左問：クイナ、ナキイスカ、サケイ、ヨタカ

右問：アビ、アオジ、ジュウイチ

インフォメーション

東京

日本ワイルドアート協会 主催展

●日本ワイルドアート協会主催展 ー野生生物・絵と立体の世界ー

内容：油彩、水彩、日本画、色鉛筆、鉛筆画、版画、デジタルアートなど多彩な絵画をはじめ、木彫やペーパークラフトなどの立体作品、手描き友禅など、様々な手法で表現された生き物たちの作品を展示します。

期間：7/7（火）～7/12（日）10時～18時

※初日は14時から／最終日は15時まで

場所：目黒区美術間区民ギャラリー（東京都目黒区目黒2-4-36）

入場料：無料

HP：<http://www.jawlas.jp/2026/03/09/post47/>

問合せ：日本ワイルドライフアート協会事務局 川崎以和

E-mail:tthykawasaki@triton.ocn.ne.jp

大阪

特別展「鳥」

ーゲノム解析が解き明かす新しい鳥類の系統ー

●鳥類の進化と多様性を紹介する特別展！

内容：最新のゲノム解析によって明らかになってきた鳥類の新しい系統や進化の姿を、多彩な標本や展示を通して紹介する特別展です。大阪展では、大阪湾と鳥たちの関わりを解説する限定展示も行われます。

日時：3/14（土）～6/14（日）9時30分～17時

※入場は16時30分まで

会場：大阪市立自然史博物館 ネイチャーホール

（花と緑と自然の情報センター2階）

（大阪府大阪市東住吉区長居公園1-23）

休館日：月曜日、5/7（木）※5/4（月・祝）は開館

入場料：当日券 一般1,800円、高大生1,500円、小中生700円

問合せ：大阪市総合コールセンター（なにわコール）

TEL：06-4301-7285

福岡

第28期「和白干潟の自然観察ガイド講習会」

●和白干潟の自然と漂着ごみについて！

内容：和白干潟の自然観察会ガイドを育成するための講習会です。自然を体験して学習します（初心者歓迎）。

日時：5/17（日）13時～17時

※受付は12時30分から

集合：和白干潟を守る会事務局（福岡県福岡市東区和白1-14-37 海のきりえ館1階）

講師：佐藤 正典氏

（鹿児島大学名誉教授）

持ち物：筆記用具、飲み物、双眼鏡（あれば）

服装：長袖、長ズボン、帽子、長靴

募集：20名。

参加費：300円

申込み・問合せ：和白干潟を守る会 山之内

TEL:090-8412-2663

インフォメーションの情報募集

自然観察会・シンポジウム・集会・写真展など、イベント情報をお寄せください。掲載申込締切りは2026年7・8月号（7月1日発行）は5/29（金）までです。
E-mail：editor@jspb.org

使用済み切手・カード類提供のお願い



使用済み切手やカード類（パスカードは除く）を収集して現金化し、活動資金として自然保護に役立てています。切手は、消印も含めて封筒から切り取った状態でお送りください。なお、未使用切手、書き損じのハガキもよろしかったらお送りください。カード類（テレホンカード、図書カード、各種交通機関カード、ダムカード、文化遺産カード、ジオカード、ゲームカード）は、表面に



セロテープやホチキスを使用しないようお願いいたします。

（担当：岡安）

商品の注文について



商品のご購入は代金先払いでお願いしています。ゆうちょ銀行の定額

小為替、現金書留、郵便振替のいずれかで、商品名・個数・お届け先住所・氏名・電話番号（昼間の連絡先）をお書き添えのうえ、お申し込みください。なお、請求書、納品書を必要とされる場合は、担当までご相談ください。（担当：岡安）

バックナンバーの提供について



観察会等を主催する会員の方に、機関誌バックナンバー+入会案内を無料でお分けしています（ただし、梱包送料はご負担いただきます。金額についてはお問い合わせください）。ご希望の方は、①お名前、②ご住所、③電話番号、④使用予定日、⑤希望数をご記入のうえ、FAX・郵便・e-mailのいずれかで、編集担当の吉田までご連絡ください。

会費の振替用紙について



振替用紙は、会費納入月の統一にあたり、年1回、3・4月号に綴じこ

んでありますので、ご了承の程、お願いいたします。

広告募集

本誌では広告を随時募集しています。種類は、裏表紙カラー、本文カラー1頁、本文モノクロ1頁・1/2頁・1/3頁・1/4頁です。詳細は、編集担当の吉田まで、お問い合わせください。

編集後記

▼私の家の近くを流れる多摩川とその支流では、桜の開花とほぼ同時に、カジカガエルの「フィー♪フィー♪」という澄んだ鳴き声が響き始めます。桜並木のライトアップもあって、人出もほどよく、夜のお花見スポットとしては東京No.1だと勝手に自負しています。

（吉田）

ご支援をお願いします

会費・ご寄付は下記の郵便振替口座へ
口座番号：00150-9-19214
加入者名：公益財団法人 日本鳥類保護連盟
※送金の内訳をお忘れなくご記入ください。

【年会費】

特別支援会員	1口	10,000円
個人正会員	1口	5,000円
家族会員	1口	1,000円
学生会員（学生・生徒）	1口	3,000円
法人会員	1口	20,000円

【一般寄付（愛鳥募金）】

当連盟の活動全般に有効に活用させていただきます。

【使途指定寄付】

シマフクロウ、サシバ、奄美大島の希少鳥類の保護など、使用目的を指定していただく寄付です。

詳しくはHPをご覧ください。

<http://www.jspb.org/kihu>

なお、公益財団法人への2千円を超える寄付金は、寄付者の所得税などの税控除の対象になります。

私たちの自然

第67巻5・6月号 通巻No.664 2026年5月1日発行
定価1,200円（税込）（会員の購読料は会費に含まれます）

発行：公益財団法人 日本鳥類保護連盟

代表者：小宮輝之 編集長：中島慶二

編集主幹：吉田裕樹

編集委員：藤井 幹

松永聡美

ISSN 0910-6987

©2026 Japanese Society for Preservation of Birds

誌面デザイン・印刷：日本印刷（株）

公益財団法人 日本鳥類保護連盟

〒166-0012 東京都杉並区和田3-54-5 第10田中ビル3F

TEL：03（5378）5691 FAX：03（5378）5693

ホームページ：<https://www.jspb.org/>

事務局業務時間 9:30～17:30（土・日・祝祭日休）



主な連絡先のEメールアドレス

一般的な問い合わせ：webmaster@jspb.org
愛鳥教材について：岡安 hukuuu@jspb.org
調査・保護について：松永 research@jspb.org
機関誌について：吉田 editor@jspb.org
バードピアについて：岡安 birdpia@spb.org
会員・会費について：吉田 kaiin@jspb.org

facebook：<https://www.facebook.com/jspb.org/>

X：<https://twitter.com/jspb2020>



日本鳥類保護連盟会員限定サイト

<https://jspb.org/newsite/membership-jspb/>

パスワード：jspb664

会員限定サイトでは『私たちの自然』バックナンバー

（過去1年分）閲覧と一部の商品を会員限定価格で購入できます！



令和
8年度 愛鳥週間用ポスターができました

千葉県 千葉県立幕張総合高等学校 3 年・前島鈴葉さんの原画を
もとに今年度のポスターを作成しています



作者コメント

私は幼少期から絵を描くことが好きで、部活動でも多くの作品を制作してきました。人物画が中心だった私にとって、野鳥を題材にした今回のポスターは新たな挑戦となりました。

原画では、日本人にとって身近な「雀」と「桜」をモチーフにしました。初春の冷たい空気とふくら雀の温かな羽毛を青みの影と黄みの陰で表現しています。雀の存在感にこだわり、すぐそばにいるような印象を与えられるように描き込みました。この受賞を励みとし、今後はより一層創作活動に邁進します。

※作者コメントは一部割愛しております。全文は連盟 HP をご覧ください。

ポスター大きさ
A2 判
(420 mm × 594 mm)



愛鳥週間用ポスター
原画コンクールHP

愛鳥週間用ポスターは愛鳥週間の普及に利用していただくため、会員の皆さまにおわけしています

ご希望の方は・・・

①〒住所、②氏名、③電話番号、④会員番号（支部の方は支部名）、⑤枚数（お一人様 10 枚まで）をご記入の上ハガキ・FAX・E-mail のいずれかでご連絡ください。

梱包は「折らずに丸めた状態」でお送りいたします。

梱包・送料は 880 円分の切手をポスター到着後にお送りください。

なお、部数に限りがありますので、なくなり次第配付終了となります。

お問い合わせ・お申込み先

166-0012

杉並区和田 3-54-5 第 10 田中ビル 3F

公益財団法人 日本鳥類保護連盟

TEL:03-5378-5691

FAX:03-5378-5693

E-mail : okayasu@jspb.org (担当：岡安)